良城小 URL：http//www.yamaguchi-ygc.ed.jp/ryojo-e/

良　城　小　学　校
学校だより 11 月号
児 童 数 ８ ２ １ 名
平成 30 年 10 月 26 日

「あなたと私」 あなたがいるからこそ私は話せる

校長　増　野　淳　一

１０月１８日（木）に、人権教育の授業参観及び講演会を行いました。

本年度の講演会は、吉敷地域の人権学習推進協議会と合同で実施しました。「一人ひとりの人権が尊重された心豊かな地域社会」の実現を目指す人権教育は、学校だけでなく、家庭や地域とともに進めてこそ大きな効果が生まれます。

小学校の体育館には、保護者だけでなく多くの地域の方の参加がありました。講師のお話を共に聞き、共に考え、そして、学んだことを共に実践していく。学校、家庭、地域の大人みんなが同じように子供に話しかける。その姿こそが子供達に伝わり、ふるさとを愛する心優しい子供に成長してくれるものと期待しています。

さて、講演では、長門市の金子みすゞ記念館の矢崎館長さんから、「みんな違ってみんないい～まなざしを変えると見えてくること～」と題し、あなたがいるからこその自分であること、あなたに話しかける言葉の大切さなどについてお話を伺いました。

矢崎館長さんは、無名だった金子みすゞを世に知らしめた著名な児童文学作家です。矢崎さんは、みすゞの詩の根底に流れる人間の本質について、大変優しく、分かりやすく話して下さいました。

ここでは、私が講演の中から子供達にも特に伝えたいと感じた2つのことについてお知らせします。

１つは、「あなたと私」という言い方に表れている「他人と自分の関係」についてです。矢崎さんは、一般的によく使われる「私とあなた」という言い方ではなく、「あなたと私」と、あなたを先にすることが人間の本質を表していると話されました。

「あなたが聞いてくれるから話せる。あなたがいないと私はしゃべれない。」

日常の生活の中では、どうしても「私とあなた」という関係で自分中心に動いてしまいがちです。それを「あなたと私」とまなざしを変えることの大切さを説かれました。だからこそ、みすゞの代表的な詩である「わたしと小鳥と鈴と」は、詩の最後は「鈴と、小鳥と、それからわたし、 みんなちがって、みんないい。」と結ばれているのです。

2つめは、自分が発する言葉の大切さです。

「言葉は相手に向けて発しているように思えるだろうが、実は、相手より先にまず自分が聞いている。友達をいじめる言葉は自分に言っているのと同じ。いじめる言葉は自分にどんどん貯まっていく。誰かをいじめることは、実は自分自身の尊厳を傷つけているのと同じである。自分が聞いてわくわくするような言葉を言ってあげよう、きっと相手もわくわくする言葉を返してくれる。」

今回の講演は、「あたたかい言葉で支え合いながら」という本校の教育目標の一つにも直接繋がる大変有意義な講演でした。本校教育の方向性の正しさを確信するとともに、その達成に向けて、言葉を大切にする教育を進めていきたいと改めて強く感じました。